

和やかにボッチャ大会

— 冬季スポーツ大会 3年ぶり開催 —



大人も子どもも楽しんだ大会 (鼎体育館)

久々の歓声

体育委員長
桐山直登

2月5日(日)に冬季スポーツ大会を3年ぶりに開催することができました。基本的な感染症対策を講じることが前提であり、マスク着用でも行えるボッチャに種目を変更

させて頂きました。各分館から2チーム選出で5ブロックに分けて対戦してもらいました。競技をしている光景を見て、子どもから年配の幅広い年齢の方々、また初心者の方にも楽しんで頂ける競技であると感じ、いい交流の場になったと思います。

また、鼎中ジュニアボランティアの生徒さんにも参加して頂き、進行から得点集計まで協力してくださりとても助かりました。役員の方々にも当日の準備から運営までお世話になりました。無事に大会ができたことに感謝申し上げます。

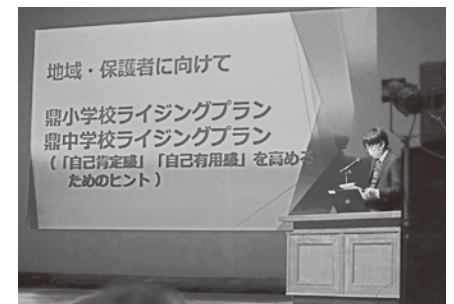
えんはくどい

私も60歳を過ぎ定年後の第二の人生を歩み始めました。勤めていた頃は毎日仕事に打ち込みそれなりの緊張した日々を過ごしていましたが、第二の人生を歩み始めた途端これといった打ち込めることもなく淡々と過ごす日々となり、なんとなく寂しさを感じ始めました。そんな中息子が私の父の農業を継承したことや地域の新規就農者との懇談をする中で、私も農業をやってみようという一大奮起して農業を始めました。まだ息子の手伝いをするといった日々です。息子に叱咤激励されながら農業をしていると、昔父の手伝いで農業をしていた頃私が父に言っていたことを今息子に言われているなど感じる場合があります。時代は繰り返すとはよく言ったものだと一人感心しています。また、農業を始めたことにより息子、私、妻が農作業中の会話でコミュニケーションをとることができるようになりました。このコミュニケーションが結構大切だということも感じる今日この頃です。皆さんも色々な行事に参加してコミュニケーションをとり地域活性化に一役かってみてはいかがでしょうか。(中平 農業者)

県の子とせむ話をのこ

鼎小学校校長 榎澤直樹

2月2日(木)鼎の子どもを語る会が3年ぶりに開催されました。鼎の子どもたちを、誰が、どのように、そしてどんな子に育んでいくか、改めて考えるよい機会になりました。誰がについては、もちろん地域、家庭、学校です。三者が連携して地域の子どもとして育んでいきます。どんな子に育むかについては、鼎コミュニティスクールが目指す子ども像「郷土に愛



着と誇りを持ち、自己現実を図る鼎の子」を目指します。そのために、まず「自己肯定感」「自己有用感」を高めていくことが大切です。どのよう

に育むかについては、「繋がる」がキーワードになると思います。コロナ禍4年目の今年、学校では地域に出て地域の方と繋がる学習を多く行いたいと考えています。地域の皆さんにも、それぞれの立場で積極的に子どもた

「お父さん料理教室」に参加して
下山 澤井勇次

12月18日(日)鼎地区で開催される「お父さん学級」は今回が2回目でした。前回は子どもが一緒に参加し、「ふれあい遊び」を幾つか教えていただいたのですが、初めて学ぶことが多く、家に帰って何回か実践しました。今回の「お父さん料理教室」も初めて学ぶことが多くありました。メニューは3品でしたが、どの料理も子どもに合わせ

ちと繋がっていただけとありがたいです。学校には、「自己肯定感」「自己有用感」を育てるために、家庭と地域がどのように子どもに接していくかを示したライジングプランがあります。

て作ったポトフ、少しアレンジするだけでカレーやシチューなどに作りかえられることを教わり、この一品だけでも、自分の料理の幅が広がったように思いました。早速、教わったことを家でも試してみたいと思います。

ずんずんず〜ん隊

大豆加工・料理教室

12月11日(日)

下伊那農業高等学 食品化学科
3年 青木 遥樹

班ごとに分かれて大豆ハンバーグ、大豆のサラダ、大豆キヤラメルの調理を行いました。私は、活動を通して学んだことがたくさんあります。ずんずんず〜ん隊に応募してもらった小学生の親子が楽しそうに大豆栽培を行っている姿に農業の良さを知ってもらえたと思います。

また、ボランティアで参加してもらった中学生、活動を支えていただいた地域の方と一緒に活動やお話をしていく中で、このような活動は多くの方の関りが必要なのだと感じました。さらに、自分が苦手だったコミュニケーション能力を向上することができました。

自分が隊長として活動していく中で足を引っ張ったりしたことでも多かったです。ここまでこれたのもずんずんず〜ん隊のお世話になった鼎公民館長様、一色区長様、鼎公民館主事様、本当にありがとうございました。



みなみ信州駅伝大会 Aチーム三位入賞

12/4(日)



日本画の魅力

矢澤清子さん 上茶屋



勤めていた会社を定年退職したときに、友人に誘われて日本画のクラブに参加したのがきっかけで、以来20余年描き続けていらっやいます。

会社では広報の仕事をしていたことから、展覧会などにはよく出かけていき、絵を見るのは好きだったけれど、描き始めたところ、描くほうの楽しさにはまってしまったそうです。

描き始めて2年目から美術展への出展を続けています。多くの賞を受賞されていますが、一番の思い出は、初めて長野県知事賞を「想」という作品で受賞した時です。

現在は上郷公民館第三日本画クラブの代表として、月1回の定例会と出展前の特別会で描いており、長野県美術展、南信美術展を中心に展覧されています。以前はご夫婦で展覧された展覧会にも足を運ばれたそうです。

描き出すまでの準備(小下図から大下図への展開やドーサを引く作業)がたいへんだが、絵の具を使って描くのが楽しくてやっています、と語ってくれます。

(取材 菅沼利和)

【日本画受賞歴】

長野県美術展					
令和元年 信州美術会賞「雨の火祭り」					
南信美術展					
平成19年	県知事賞	「想」	平成27年	春草会賞	
平成23年	敬美賞	「命」	平成28年	敬美賞	「シヨールーム」
平成24年	南信美術会賞	「CRYSTAL」	平成29年	春草会賞	「遊」
平成25年	春草会賞	「美ら海」	平成30年	県知事賞	「穂風」

かなえびと No.50

編集後記

新型コロナウイルスの流行が始まって3年が過ぎました。ほとんどの行事が中止または規模縮小となり、当時はどうなってしまうのかと心配になりました。

今年度も、春から夏の行事を見合わせたものもありましたが、皆様にご協力をいただき、対策をとりながら実施できるようになったことは本当に

ぼくの夢

名古屋 森本勝貴(4年生)



ぼくは1年生からラグビーを始めました。

ぼくは体が大きいので、体をはって力強くプレイをするフォワードをやっています。ボールを持って相手に体をおつけながら前へ進むプレイはとく意ですが、今はまだタツ

良かったと思います。

政府からこの度、新型コロナウイルスを2類から5類に引き下げるとの発表がありました。来年度はさらに多くの行事が、コロナ禍前のように行えるのではないかと期待しています。

ただ、このウイルスがなくなつたわけではないので、健康に生活できますようお願いいたします。

(S・S)



No.124

令和4年度 鼎地区二十歳の集い

成人年齢の引き下げにより、これまでの成人式から「二十歳の集い」へ名称を変えて開催されました。鼎地区では対象者133名のうち、94名が出席し、二十歳の節目を祝うとともに、旧友や恩師の先生との再会を楽しみました。



実行委員による催し



祝舞(中平獅子舞保存会)



二十歳の抱負(石川 諒さん)

このたび、私は鼎地区「二十歳の集い」の実行委員長を仰せつかりました。大役のため不安でしたが、



二十歳の集いを終えて
実行委員長 原 望々花

小中学校で一緒に学んだ仲間の協力で無事にやり遂げることができました。仲間と懐かしい母校を訪問したり、思い出話に花を咲かせるなど、楽しく準備ができたことは良い思い出になりました。

4月から私は念願だった調剤薬局の事務職員として地元の鼎地区で勤務します。不慣れですが、患者様に安心してご利用いただけるよう、精一杯努力したいと思えます。そして、勤務を通じてお世話になった地元の皆様に少しでも恩返しができたらと願っています。

最後にになりましたが、コロナ禍の中で私たちの「二十歳の集い」を開催してくださった関係の皆様にあらためて感謝申し上げます。ありがとうございます。